

## “キラリ快適ものづくり”をモットーに オリジナル製品で市場に切り込む

### 事業内容

### 企画・開発に注力するインテリア関連商品メーカー 特殊機構の開発で400件以上の特許実績

1970年(昭和45年)創業の機能金物メーカー。セーフティストッパーをはじめとする開口制限金物や引き戸クローザーシリーズ、カーテン内蔵ガラスなど、住宅などで使われる機能金物を幅広く扱っている。内装建材業界、サッシ建材業界、産業機器金物業界などのトップ企業が主な取引先で、現在はそれら企業からのOEM受注が多い。一方、2015年からオリジナルブランド「kuuki」を立ち上げ、デザイナーや建築家とのタイアップによるデザイン性の高い製品ラインナップを開発。大手量販店やインターネットを通じての販売にも力を入れる。

現段階では、戸当りのみの取扱いだが、今後はデザイナーや建築家とのタイアップによるデザイン性の高い製品ラインナップを投入する予定だ。

同社の強みは、技術開発力に尽きる。申請した工業所有権(特許・実用新案など)が400件を超え、その技術開発力を支えるのは、設計と製造の現場が近接しており、開発者が設計した機構を自ら組み立てて検証を行い、300もの工場と協力体制を構築していることである。また、同社の品質理念である3つのシン「真の品質を知る」「信の品質を創る」「心の品質を尽くす」も企業文化として根付いており、技術開発の根底を支えている。

### 補助事業

### 自閉引き戸ユニットの開発 静寂性と軽快な操作性を求めて

これまで市場に流通していた引き戸クローザーはインテリアに合わないデザインが多く、入居者の観点からは操作音が耳障りとなっていた。また、施工者の観点からは引き戸クローザー自体が重く、構造も複雑なために取付けに手間が掛かっていた。

市場環境に目を向けると日本社会は高齢化が進み、介護福祉関連分野や住宅リフォーム分野において安心・安全で快適な引き戸クローザーの需要が高まりつつある状況にあった。

上記の観点から同社では、介護施設や一般住宅で利用できる引き戸クローザーの開発に着手。重視したのは、開閉時の静音性を確保し、施工時の職人の負担を軽減すること。静音性に関しては、素材選択から構造的な問題までコンピュータ上で何度もシミュレーションを行って操作音の低減に努めた。施工時の職人の負担軽減に関しては、軽い部材を厳選したり構造を簡易化することで対応した。操作音と軽さが最適になるモデルを考案し、製品化を進めた。

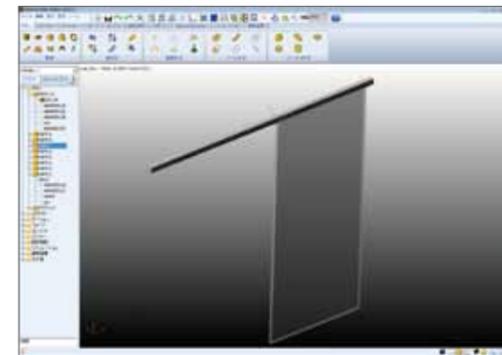


### 成果

### 機能面の向上による静音性の獲得 施工者の負担軽減の効果も

静音・快適な引き戸クローザーの開発にあたって、音響解析ソフトウェアを今回新たに導入。部品などをコンピュータ上で組み立てるかたちで設計開発を行った。実際のコストを掛けずに製品の形を作れ、モデル化ができるため、従前よりもスピーディーに開発に取り組むことができた。ただ、“音”の分野に関しては経験が少ないため、静音化は手探りでのスタートとなった。文献や学会誌を読み漁り、徐々に音に関する専門的な知見を蓄積したという。そんな苦勞の結果、静音性を実現。ただ、同社では“快音”を目指しており、どのような音を人は“快音”と感じるのかを含めて、研究を進めていきたいとしている。

今後は既存製品をバージョンアップさせて静音性を考慮した引き戸クローザー「RCM」を発表予定(2015年8月時点)。ブレーキや走行性も含めてグレードアップした製品となっている。価格面では他社製品に見劣りするものの、性能面を重視する取扱い企業からの反応は良い。また、取付けに関しても施工現場から一定の評価が得られており、業界内での口コミによる広がりも期待している。



### 今後の展開

### 新たな取引先の開拓と さらなる技術開発力の向上を目指す

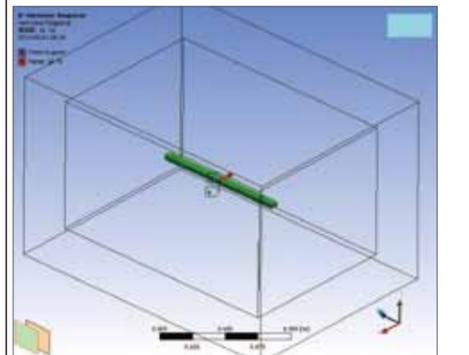
今後は製品の付加価値向上に努め、低価格競争のリスクを極力減らすかたちでの事業展開を考えている。そのためには、既存のOEM製品だけでなく、機能性やデザイン性を向上させたオリジナル製品の開発は不可欠であり、技術開発力のさらなる引上げが必要である。機能性では、既存の特許技術を応用させていくことに加え、コンピュータ技術を活かしてシミュレーションを重ねることにより、今までにない製品の開発を目指す。デザイン性では、デザイナーや建築家とのタイアップによって製品の新たな価値を創出していく。

一方、販売面では、既存の取引先にこだわらず、同社製品の価値を認めてくれる商社筋への販売に注力していく。建築商材の業界は、長年の商慣習から新規取引業者として入り込むのが難しい面もあるが、全国の建築関連の商社を地道に当たる戦略で新たな販路を開拓していく予定だ。中長期的には、海外での展開も視野に入れ、開拓を進めていくという。

「コンピュータ技術の向上により、開発の精度は高まりつつあるが、開発は機械によるのではなく、人間の意思、そして手と汗から生まれるもの」。この理念をもって、生活の豊かさ・快適さ・安全性を求めて一層の研鑽を積み、“ものづくり”に力を入れていく。

商品企画部長 成山 悟史  
開発設計部 若松 知哉

SKBは開発主導型のメーカーです。研究開発を止めることはできません。今回の補助金は中小企業にとって、命の水であり、思い切った投資をすることができ、本当に感謝しています。これからもお客様がアッと驚くような新商品を生み出すために、開発を進めてまいります。



### 株式会社 SKB

代表取締役社長 伊藤 博之  
東大阪市御厨1-5-3  
TEL : 06-6788-1517  
〈資本金〉80,000千円  
〈従業員〉95人  
<http://www.skb-net.co.jp/>

